

—布団綿の「打直し」について—

新潟大学 ○多田 千代

従来、布団綿の「打直し」は、固くしまった綿の繊維集合状態を変え、保温性を高める一手段として行われてきたが、一部では、経験的に「打直し」は、繊維を機械的に傷つけるのでその結果布団綿の「腰」が弱くなるから避けた方がよいと考えられてきた。そこでこの点を確認する目的で次の6つの試料について夫々繊維長、繊維巾、撚回数、銅アンモニヤ液による膨潤状態、放湿曲線、重合度、圧縮弾性比を比較測定した結果、綿の性能劣下は汗その他使用によるもので「打直し」によるものでないことが分かったので報告する。

(試料) A) 原棉

a) Aを食塩水
300g/lに40°C
24時間浸漬し
たもの

B) Aを回50打直したもの

b) aを30回打
直したもの

C) 同上の落綿

c) 同上の落綿